

紅葉溪庭園の植生の現状と改善

和歌山大学システム工学部 環境緑化法 植生班 佐藤 芝田 谷 中村 橋本 波多野 藤田

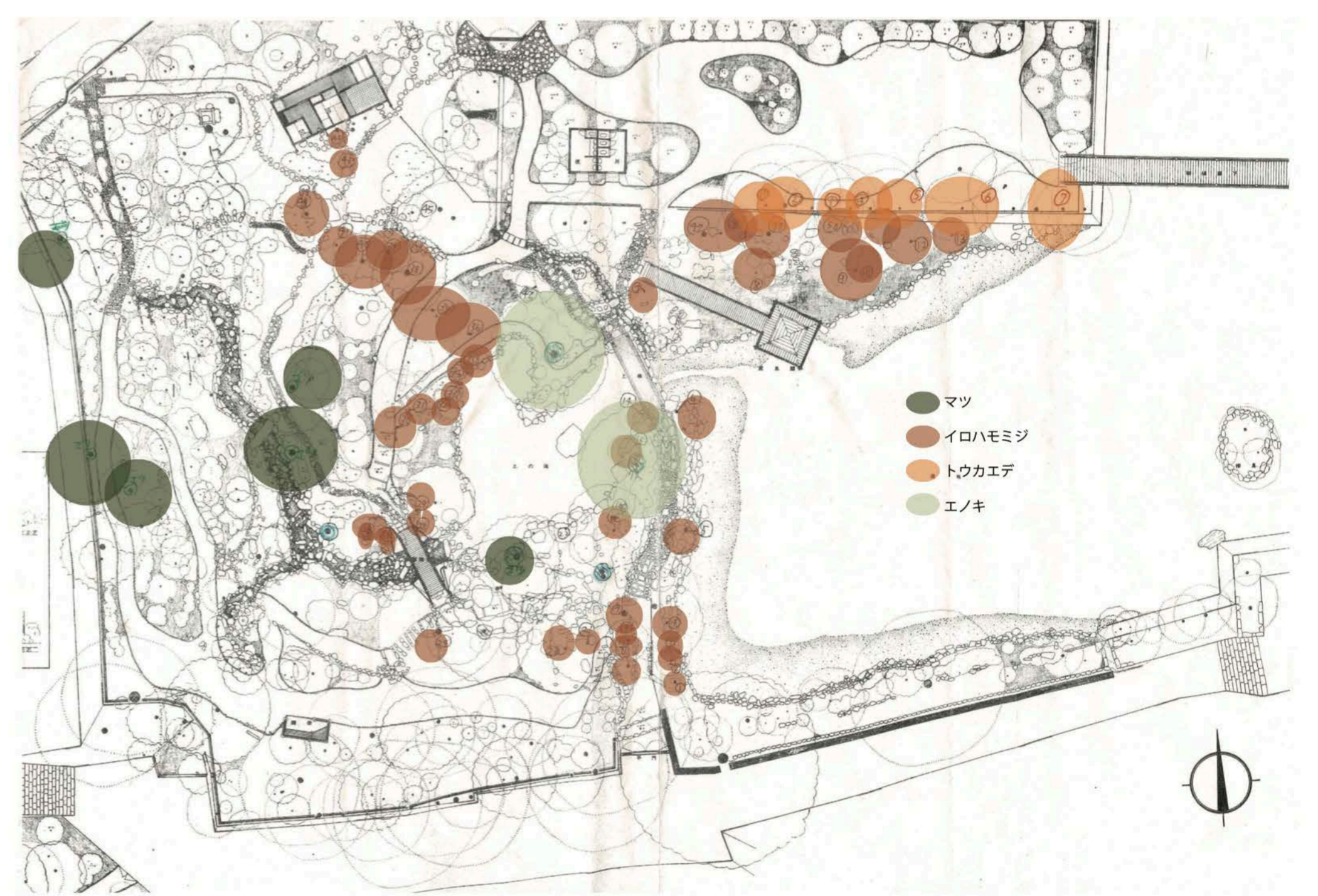
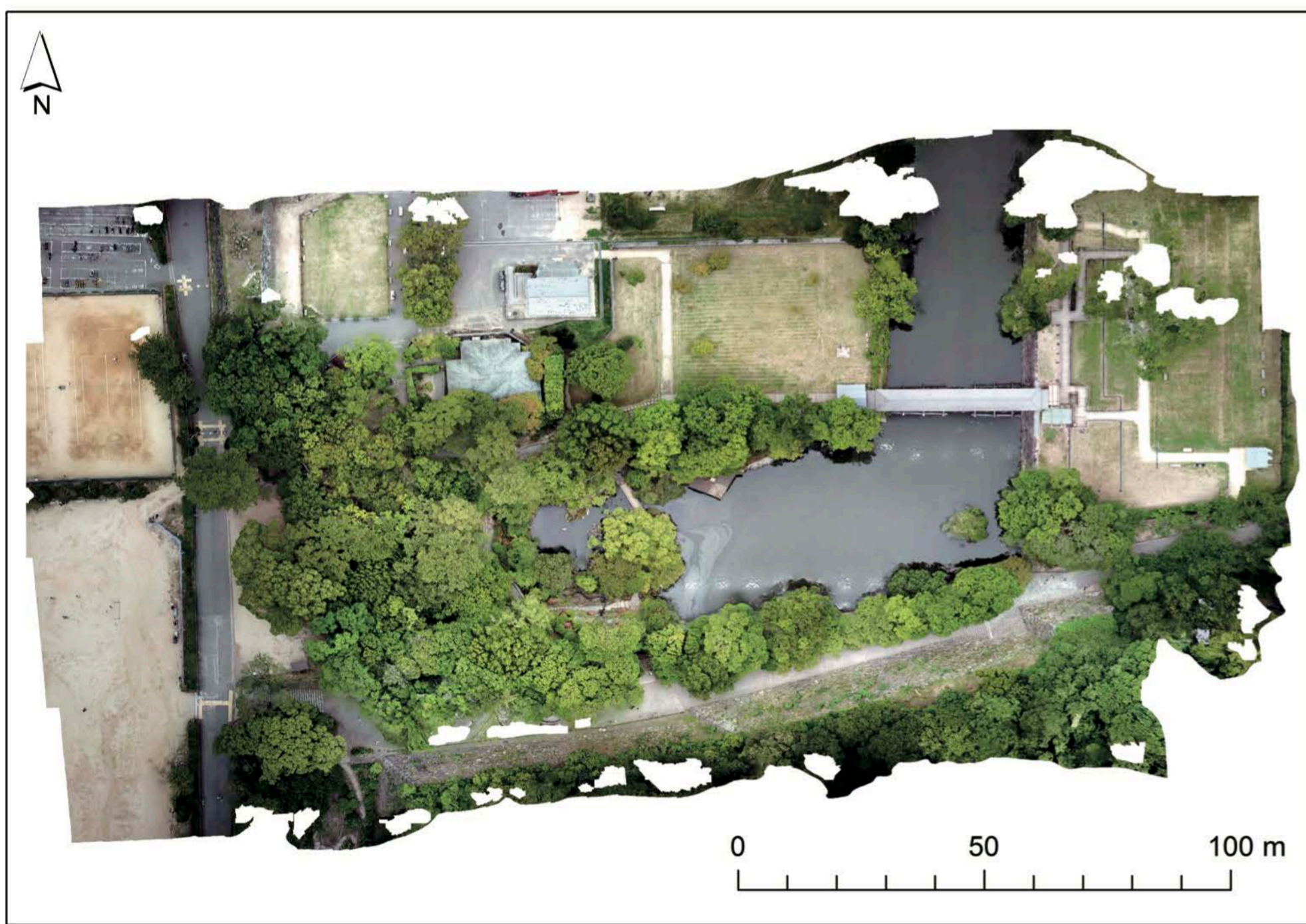
紅葉谷庭園とは？

- ・江戸時代初期に、紀州藩初代藩主の徳川頼宣が築いた池泉回遊式庭園
- ・正式な名称は西の丸庭園で、紅葉溪庭園の名で親しまれるようになったのは戦後以降
- ・しかし、昭和53年の調査ではカエデの植生が庭園内に占める割合は2%(*1)と決して高くない

(*1) 和歌山公園および岡公園の植生等調査資料 昭和53年3月 P.49-52

このように紅葉が庭園内の代表的な樹種であるにもかかわらず庭園内の優占種でないことに興味を持ち、2018年5月26日に主にイロハモミジ、トウカエデの庭園内での分布と樹高、幹の太さについて調査を行った。

空中写真と植生図



左：紅葉溪庭園空中写真（2018年5月26日撮影） 右：今回の植生調査から作成した植生図

調査結果と改善提案

調査結果

分布：イロハモミジは上の池周囲と茅門、紅松庵付近に、トウカエデは西の丸の南部に分布が見られた。

樹高：平均 イロハモミジ (4.916m) トウカエデ (12.57m)

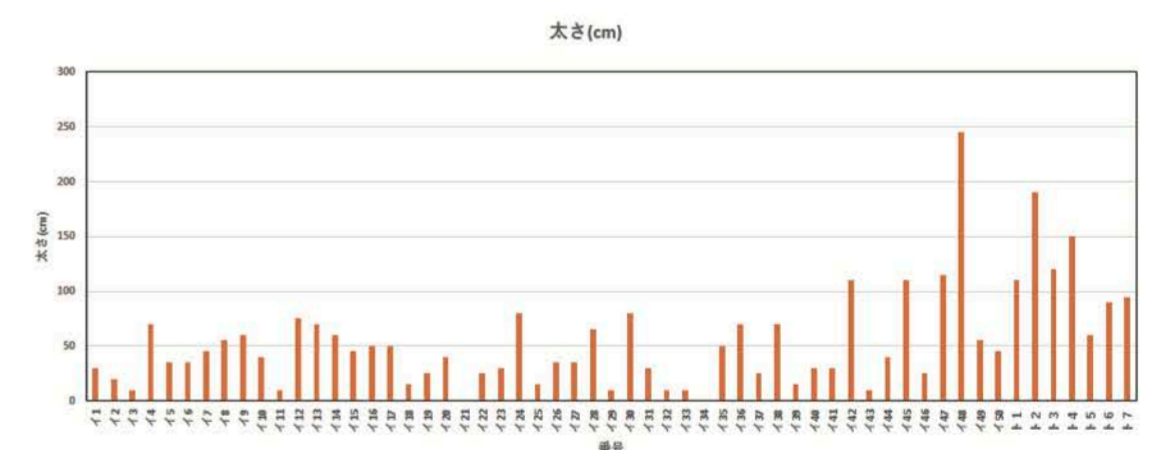
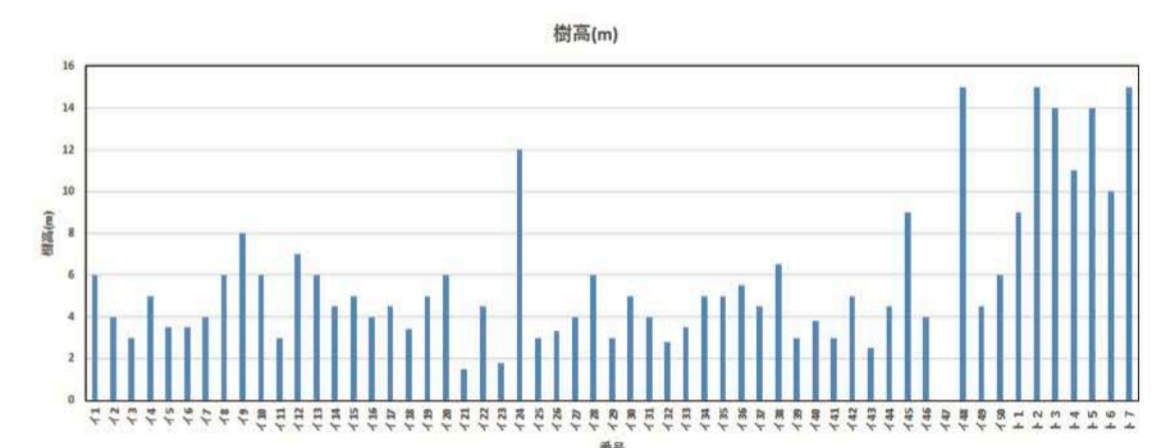
太さ：平均 イロハモミジ (47.45cm) トウカエデ (130.7cm)

庭園における問題点

空中写真より、庭園内の樹木は密度が高く分布地に紅葉の葉が見られないことから、紅葉より高い樹木によって日照が遮られ、その結果紅葉の成長が遮られている可能性がある。また、右のように庭園の景観や見通しに悪影響を与えている高木も見られた。

改善提案

上記の問題より、紅葉への日照が遮られているかについては追加の調査、測定が必要になる。しかし、少なくとも庭園内の景観の観点からは高木の適度な剪定は必要であると言えるのではないだろうか。



上：イロハモミジとトウカエデの樹高
下：イロハモミジとトウカエデの太さ

